

## 5. おわりに

本研究では指導陣から一方的な教え込みでない向上訓練の授業をねらい、“教え込み”の対極に“対話的”をおいて、向上訓練の授業を分析した。

ここで分析した「旋盤加工技能クリニック」の第3日の授業、“対話と討論”は分析結果にみるように対話的な要件をいくつかそなえていることも明確となった。

このような対話と討論を含む向上訓練の授業では、従来の講義のみの授業にくらべて成人在職者である受講者の学ぶ喜びはかなり大になっているものと思われる。

ゆえに、“向上訓練での授業は“教え込み”方式から脱皮を考えていくべきであろう。

今回、分析した授業は、われわれの開発した「技能クリニック方式」の向上訓練のなかで、“技能診断”プロセスと“自立研修”プロセスとをつなぐ重要な役割をしているプロセスである。この方式について残されている課題もあるが、少なくともこの研究により、向上訓練の授業での討論と対話のもつ意味が再評価しえたと思われる。

本研究では授業分析により向上訓練の対話的スタイルを描いてみたが、これとは別の視点から「旋盤技能クリニック」第3日目の授業を解析することもできるであろう。その意味でこの授業の全記録を補足資料として集録している。これは機械加工にかかわるものであり、機械以外の方々には読みにくいものかもしれないが、向上訓練の対話的な授業の展開としてはおもしろいものであり、ぜひ再分析されることを期待したい。

今後、職業訓練は技能伝習的な訓練観からの転換を迫られるであろう。公共向上訓練の担当者は、その地域で必要とされている職業人の能力的要素を調べあげ、off-J Tで行なう教育訓練を明らかにし、向上訓練コースを設置し、さらに独自性をもつ学習システムを開発することが必要と思われる。本研究がこれらの方向への手がかりになれば幸いである。

この研究をまとめるにあたって、茨城雇用促進センターの渡井道輔課長、山梨技能開発センター機械科の大崎 晃先生、相川文英先生にお世話になりました。心よりお礼申し上げます。